

Treasure Hunt

論文から混合研究法の要素を探し出す



フェターズ・抱井 (2021)遠見書房

1.混合研究方法を用いた理由・根拠

“...論文著者は、研究背景にこのような根拠をひとつ以上挙げるべきですが、**その際に必ずしも混合研究方法の用語を使わないことが多い**といえます。根拠が示される場合、説明として（記述的に）記されることが多いでしょう。混合研究方法の宝探しをする中で、**根拠が明確な場合もあれば、暗に示されるだけの場合もある**でしょう。まずは論文の「序論」、あるいは「背景」の部分を探してみましょう。”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究方法の手引き*. pp.9-10)

混合研究法を用いた理由・根拠（簡易版）

相補性：混合型データを収集し比較することで、調査対象の現象について、片方だけでは見えない側面を、もう片方で補う

発展/積上げ：第1段階の結果を使って、第2段階の調査や仮説を設計する

裏付け/検証：一つのアプローチから得られた推論の信憑性を混合研究法を用いて評価する

補完：量的研究・質的研究それぞれの弱点を補い合う

モデル形成/検証：質的研究法を用いてモデルを発展させ、量的研究法を用いて検証する。あるいは量的研究法を用いて理論モデルを構築し、質的研究法を用いて妥当性を確認する

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. p.10)

2.混合研究法デザイン・手続き

“これまでに多くの研究者が混合研究法デザインのタイプを表す言葉を考案してきました。ここでは、次に挙げる理由から、Creswell & Plano Clarkの考え方を踏襲します。...このお宝を見つけるためには、論文の研究方法のセクションの冒頭に注目すると良いでしょう。”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. p.10)

基本デザイン

- 収斂デザイン
- 説明的順次デザイン
- 探索的順次デザイン

応用デザイン

- 介入デザイン
- 事例研究デザイン
- 参加型社会公正デザイン
- プログラム評価デザイン

3.混合研究法の研究設問あるいは目的

“...混合型研究では、混合型の研究仮説、あるいは研究設問が設定されることがあります。研究仮説は、しばしば量的研究に用いられます。質的及び混合型研究では、研究者が設問に答える形を取ることが多いです。あるいは研究の目的が仮説を反証あるいは検証することではなく、質的データから理論・概念モデルを組み立てることかもしれません。心しておきたいのは、**混合型研究設問は時に隠されている、あるいは暗に示されるにとどまる**ことがあることです。このような論文を読むときには、読者は「行間を読む」ことが必要になってきます。...”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. p.10)

4.混合型研究の哲学や理論

“混合型研究の厳密さを検証する手がかりの1つに、研究が特定の哲学的あるいは理論的立場をとっているかを見極めることが挙げられます... 明確に示されている場合もあれば、仄めかされるだけのこともあるかもしれません。分野によって異なりますが、社会科学では特に、研究実施の基礎となった哲学的立場・及びあるいは理論を示すことが求められます。哲学的立ち位置や理論を見つけ出すのは、宝探しの中では最も難しいことかもしれませんが、同時に最も価値あるものとなるかもしれません。”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. pp.10-11)

5.混合型研究のプロセスを描いたダイアグラム

“混合型研究は複雑なものです。ゆえに、*Journal of Mixed Method Research (JMRR)*誌では、デザインの略図を論文に含めることが通例となっています。...ダイアグラムは混合研究法の宝探しの中で最も手が届きやすい宝です。手に入ったら、ダイアグラムをじっくり読んでみましょう！入念に作られたダイアグラムには、非常に多くの情報が詰まっています。”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. pp.11)

6.統合の次元とジョイントディスプレイ

“混合研究法の特徴は、質的及び量的研究を統合することです...
表1.3に混合型研究において質的及び量的研究手続が統合され得る次元を示しました。すべての混合型研究論文には含まれませんが、統合のためのデータ結合の手続きとして、ジョイントディスプレイを利用することがますます一般的になっています。...”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. pp.11-12)

表1.3 混合型研究における統合の次元（3つのレベルに整理）

研究計画レベル

- 哲学
- 理論
- 文献レビュー
- 根拠
- 研究目的/研究設問
- チームの専門性

方法レベル

- 研究デザイン
- サンプルリング
- データ収集
- データ分析

執筆/報告レベル

- 解釈
- 修辞（レトリック）
- 研究結果の公開/共有
- 研究の公正性

（フェターズ・抱井（2021），*混合研究法の手引き*. p.11）

7. 混合研究法デザインの妥当性を脅かす要素（限界）

“...ここでは、研究者が選択した研究アプローチの短所が正直に報告されているかを宝物として見つけましょう。正直な研究者は質的、量的及び混合研究法の視点からの短所を述べています。...**考察のセクションの終わりに述べられていることが多いですが、方法や考察の冒頭に述べられている場合もあります。**著者が短所を報告しなかった可能性もあります。この場合、著者が検討すべき短所や妥当性を脅かす要素を見つけてみましょう。”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. p.12)

8.量的および質的データ収集法や分析法の厳密性

“混合型経験的研究の実践及び発表・出版に向けて、研究者は次の3つのタイプの情報を明確に示す必要があります。1) 質的データ収集・分析手続き、2) 量的データ収集・分析手続き、3) 混合研究法の統合手続き。...混合研究法の手続きの報告にはまだ統一された取り決めがないため、注意深く探する必要があります。方法、結果及び考察のセクションに注目してみると良いでしょう。”

(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. pp.12-13)

9.結果の解釈と報告のレベルでの統合

“ナラティブを通じて混合型研究の結果を統合する場合、研究者は質的及び量的結果を一つの、または一連の報告にまとめます。ナラティブを通じた統合方法には大きく分けて3つのアプローチがあります。1つ目は質的及び量的研究結果を別々のセクションに設けて報告する隣接アプローチです。...2つ目は質的及び量的結果を同じセクションにまとめる織り込みアプローチと呼ばれるものです。...3つ目はいくつかの論文を段階別に執筆する段階アプローチです。...「質的及び量的データ分析結果は別々に報告されているか？」「関連する質的及び量的データが各概念を裏付け、織り込み式で結果が報告されているか？」「関連論文で報告された研究結果が背景として紹介されているか、または考察に結びつけられているか？」これらの質問は研究結果の解釈及び報告レベルでの統合方法を識別するのに役立つでしょう。”

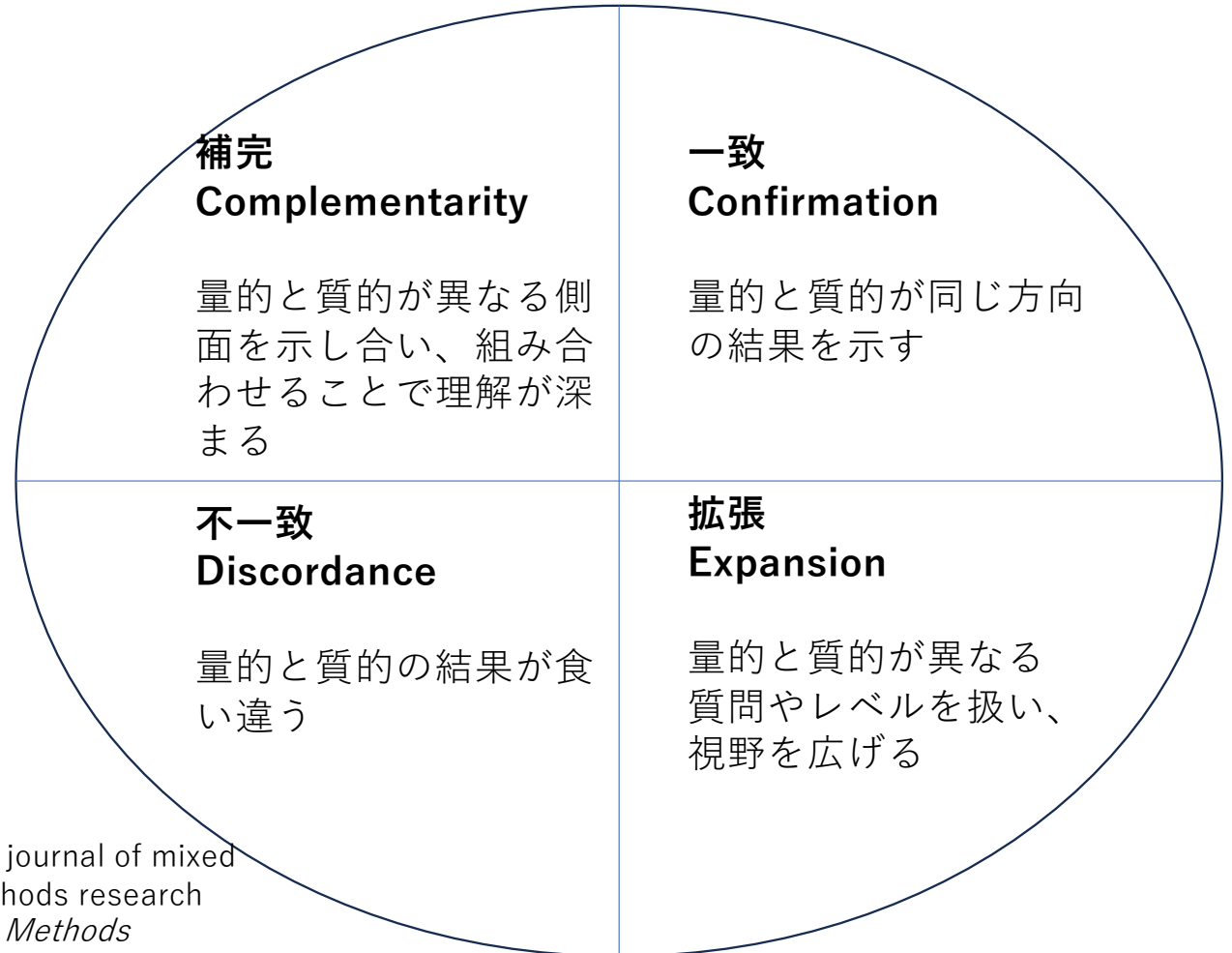
(フェターズ・抱井 (2021), *混合研究法の手引き*. pp.12-13)

10.混合研究法によるシナジー（相乗効果）

“...混合型研究がかなりの労力を要することを考えると、研究者は混合研究法を用いることによって得られる付加価値を明確に述べるべきです... 「新たな洞察が得られたか？」 「より幅広い理解が得られたか？」 「研究設問の理解が拡張されたか？」 「両タイプのデータ分析結果が互いを裏付けたか？」 「両タイプのデータ分析結果に矛盾が発生し、それが新たな探究につながることでより良い理解が得られたか？」 これらの問いを検討することで混合研究法の宝物であるシナジー（相乗効果）を見つけやすくなります。”

（フェターズ・抱井（2021），*混合研究法の手引き*. p.13）

参考 統合的解釈（メタ推論）の4パターン



出典：Fetters, M. D., & Molina-Azorín, J. F. (2017). The journal of mixed methods research starts a new decade: The mixed methods research integration trilogy and its dimensions. *Journal of Mixed Methods Research*, 11(3), 291–307.